

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留幸
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし



美竹教会 (東京教区西南支区、東京都渋谷区渋谷)

メッセージ

使徒言行録18章9〜11節

わたしの民が大勢いる



上田光正

励ましの言葉

◆ コリント伝道で失意の中
 にいたパウロは、主からの
 御言葉によって勇気づけら
 れました。
 「ある夜のこと、主は幻の
 中でパウロにこう言われ
 た。『恐るるな。語り続けよ。
 黙っているな。わたしがあ
 なたと共にいる。だから、
 あなたを襲って危害を加え
 る者はない。この町には、
 わたしの民が大勢いるから
 だ。』(使徒言行録18:9)

◆ コリントの教会は、原始
 教会の中でも最も規模の大
 きい、そして、最も活発な
 教会となりました。私ども
 はパウロが書いたコリント
 の信徒への二つの手紙か
 ら、この教会の内部にも
 様々な問題があった、とい
 うことが語りたがりま
 す。しかし、むしろ、この
 教会の存在の意義や周囲に
 与えた影響の大きさをよく
 考えなければ、見方が偏り
 ます。パウロはこの教会を
 愛し、この教会に宛てて、
 実に四通もの手紙を書いて
 いるのです。
 コリントの町は、アテナ
 とは比べものにもならない
 ほどのマンモス都市でし
 た。「ギリシャの星」と呼
 ばれ、繁栄を極めていまし
 ました。しかし、この町は同時
 に、様々な悪徳と虚栄の町
 としても、悪名が高かった
 のです。
 パウロがこの町に伝道に
 来たのは、アテナ伝道が失
 敗したからなのです。そ
 こでパウロ自身が受けたダ
 メージも、決して小さくは
 なかったようです。あの気

◆ パウロは余程の覚悟を決
 めたに違いありません。そ
 の決意の程を述べた言葉
 が、次の有名な聖句です。
 「十字架の言葉は、滅んで
 いく者にとっては愚かなも
 のですが、わたしたち救わ
 れる者には神の力です。」
 (一コリント1:18)
 彼はこの時、もしコリン
 ト伝道に失敗したら、ヨー
 ロッパ伝道全体が失敗した
 が続きました。
 この世俗的な町コリント
 の人々に、福音をそのまま
 がぶつけるという果敢な戦
 いが続きました。
 なるでも、やはり死ぬ時に
 はキリスト教の信仰を持つ
 て死にたいのです。私ども
 は、そう確信して差し支え
 ありません。その人々に福
 音を宣べ伝えることが、私
 どもの光栄ある務めです。
 それ以来、パウロは、「一
 年六ヶ月の間ここに留まっ
 て、人々に神の言葉を教え
 た」とあります。「留まっ
 て」とは、「腰を据えて、
 」という意味です。そして、
 実に一年半という長い期間
 をここで伝道することにな
 ったのです。このようにし
 て、コリントの教会が建て
 られたのです。
 (美竹教会牧師)

見えない神の民

◆ そんなある夜のことです
 た。主は幻の中でパウロに、
 冒頭の御言葉をお語りにな
 ったのです。
 「この町には、わたしの民
 が大勢いる」
 パウロはこの御言葉を、
 調子のよい、伝道の上向き
 の時に、聴いたのでしょうか。
 か。どうも、そのように思
 いません。むしろ、パウ
 ロの気持ちからすれば、全
 く正反對だったのではない
 でしょうか。「恐るるな」
 ということは、パウロが依
 然として恐れに満ち、いつ

◆ 何時ユダヤ人が彼を襲って
 来るかも知れない、という
 戦々恐々の日々を過ごして
 いたからです。「語り続け
 よ」というのも、彼の腰は
 必ずしも据わっていないか
 ったからでありましょう。語
 つても語つても無駄である
 ように思われるとき、私ど
 もは御言葉そのものに対し
 て、しばしば虚しさや絶望
 感を抱きそうになります。
 しかし主は、「この町にはわ
 たしの民が大勢いる。だか
 ら、語り続けよ」とおし
 やるのです。なぜ大勢いる
 の強いパウロが、そちらに
 行ったとき、わたしは衰弱
 して、恐れに取りつか
 れ、ひどく不安でした。」「
 コリント2:3」と言っ
 ているのです。そういうパウ
 ロの心細い限りの精神状態
 に対して、他方、コリント
 の町は、「神など要らない」
 という世俗的精神に漲り溢
 っていました。それは、今
 日の私どもの周囲にも満ち
 ているものです。神がいて
 もいなくても、時間は同じ
 ように過ぎて行き、社会で
 は同じように善いことも悪
 いことも起こり、人間は同
 じように年を取って死ぬ。
 神を慕い求める人は一人も
 いない。お前さんがどんな
 に神の言葉を語っても、こ
 の町では虚しいだろう。き
 つとお前さんはそのことを
 知るようになる。
 このような世俗的精神
 は、どうかすると私どもキ
 リスト者の心の中にも忍び
 込み、私どもを無力感や絶
 望感に陥れます。この時も
 それはまるで高くそり立
 つ断崖絶壁のようにパウロ
 の前に立ちはだかっていた
 のです。
 ことなる、とさえ思っ
 いたに違いありません。
 果たして、パウロはこの
 町でも、ユダヤ人たちの反
 対を受け、会堂から追い出
 されました。幸いにも、テ
 イティオ・ユストという人
 が自分の家を開放してくれ
 ることになりました。
 ところが、ユストの家は
 こともあろうに、ユダヤ人
 会堂のすぐ隣にあつたので
 す。これこそ神のご計画と
 も言えますが、同時に、パ
 ウロたちは非常に厳しい戦
 いのつぼの中に投げ込ま
 れたことになりました。パウ
 ロはまさに背水の陣を敷
 き、連日のように祈り、御
 言葉に専心し、日曜日には
 切々と、訴えるような気持
 ちで御言葉を語り続けまし
 た。
 中島敦の
 「名人伝」掌
 編の終わりの
 方を、少しだ
 け引用する。
 「至為は為す
 無く、至言は言を去り、至射
 は射ることなし」。機織
 (はたおり)台に潜り、眼の
 前を往来する機織(まねき)
 を決して瞬かすに見詰め、
 また軒に吊した虱を飽かず
 見詰めるというような修行
 を経て、名人の域に達した
 主人公紀昌は、単なる道具
 に過ぎない弓矢を最早必要
 とはしなくなる。彼は眼力
 だけで飛ぶ鳥を落とすこと
 が出来た。賢い渡り鳥共は
 彼の家の上空を通らなくな
 った。遂には、ある日老
 いたる紀昌が知人の許に招
 かれて行ったところ、その
 家での一つの器具を見た。確
 かに見覚えのある道具だ
 がどうしてもその名前が
 思出せぬし、その用途も思
 い当たらない。老人はその家
 の主人に尋ねた。それは何
 と呼ぶ品物で、また何に用
 いるのかと。そして、末
 尾の部分、その後当分の
 間、邯鄲(かんたんの)都で
 は画家は絵筆を隠し、楽人
 は琴(しつ)の絃を断ち、工
 匠は規矩(きく)を手にする
 のを恥じたということであ
 る。現代の教会は、紀昌
 のような名人で溢れている
 のだろうか。教会を会場に
 し様々な社会活動や文化活
 動が行われ、政治的な集會
 さえ持たれる。それは良い
 としても、聖書を開かない
 集會が増え、聖書を手にし
 ないで説教する説教名人が
 現れているのではないか。



中島敦の「名人伝」掌編の終わりの方を、少しだけ引用する。「至為は為す無く、至言は言を去り、至射は射ることなし」。機織(はたおり)台に潜り、眼の前を往来する機織(まねき)を決して瞬かすに見詰め、また軒に吊した虱を飽かず見詰めるというような修行を経て、名人の域に達した主人公紀昌は、単なる道具に過ぎない弓矢を最早必要とはしなくなる。彼は眼力だけで飛ぶ鳥を落とすこと

クリスマス献金の送金先決定 アイヌ奨学金は07年度で終了

第35総会期第七回教育委員
員会が九月二日(火)〜三日(水)の両日、教団四階会議室にて委員全員の出席をもって開催された。
台湾長老教会から七名の青年の参加があったが、日



多岐にわたる課題に委員全員で取り組んだ2年間

本側は五名であった。今後の日本側の主催の形態と青年の招集に課題が残る。
次に、プログラム小委員会からは八月十八日〜十九日に静岡一番町教会で行われた、二〇〇九年度の教会学校プログラム作成の報告を受けた。
「教師の友」の主題と聖書箇所を選定は教育委員会が責任を負う。その責任の重さを痛感しつつ、執筆者は、教師の友編集委員会が選考するので、教育委員会側の意図を正確に伝える事の重要性を確認した。
協議事項としては第一に二〇〇八年度のクリスマス献金の送金先を決定した。海外は「アジアキリスト教教育基金(ACEF)」、(バングラデシュ)に寺子屋を贈る運動、(四

川大地震被災地の子どもたちへ、国内は、若草園(養護施設)と「ひかりの家学園」(幼児発達支援施設)の二施設である。
アイヌ奨学金は二〇〇七年度をもって終了を確認した。特定の施設に長期間献金することは、教育委員会の方針にそぐわないと判断したためである。
昨年度から開始した、教

会学校応援セットを更に充実したく願っている。
キリスト教教育主事関連では、教団新報に掲載予定の認定試験の公告内容を検討、決定した。聖和大学と関西学院大学の合併を背景として、聖和大学から教育委員会へ要望が出されている件についても話し合われたが、キリスト教教育主事の会からは要望や質問のな

いことや、現行規則で対応できる事を併せて考慮すると、学校内部の問題と判断せざるを得ないとの結論に達した。
なお、総幹事の下に、「キリスト教教育主事に伴う検討会」が設置され、現教育委員の岸憲秀、加藤誠の両名がメンバーに入ることが承認された。
(加藤誠報)

「宣教基本方策」の問題点を確認
「宣教基礎理論」
九月四日〜五日に第35総会期第七回宣教研究所委員
会が開催された。
事務局より、日本基督教団史資料集、全五巻について報告がなされた。
在庫については第一巻以下それぞれ二六冊、九八冊、一九九冊、二二冊、一一冊となっており、現在七百



「宣教基礎理論」の策定に向けて歩み続けた2年間

その時点でこの資料集の会計を閉じ、在庫は教団出版局に移譲する。
今期委員会は、「宣教基礎理論」の策定に向けて歩み出したが、新たな宣教基礎理論を作成するために、現行の「宣教基本方策」(一九六一年)と、「宣教基礎理論」(一九六三年)の問題

点の確認を行った。
その全文は十二月発行予定の「宣研だより」に譲る。
その全文は「和解」の理解も、聖書が伝える神と人との和解を充分踏まえること、現行の「宣教基本方策」と、「宣教基礎理論」の問題点、教会の体質改善を、目指したが、その際教会がそもそも主イエス・キリス

トの体であるとの聖書理解が十分に踏まえられていなかった。
さらには、「和解」の理解も、聖書が伝える神と人との和解を充分踏まえること、現行の「宣教基本方策」と、「宣教基礎理論」の問題点、教会の体質改善を、目指したが、その際教会がそもそも主イエス・キリス

再建進む被災地再度問安 募金も更に推進

「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会

第六回「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会(以下、委員会)が、九月八日〜九日に、被災教区・中部教区石川地区恵泉教会で開催された。
今回の委員会は、被災教区・中部教区能登半島地震被災教会再建委員会に陪席させていただくとともに、再建途上にある教会、伝道所の現地を問安し、その状況を見て貰った。
陪席した中部教区の再建委員会では、それぞれの被災教会・伝道所の会堂等の再建について、改築、補修計画の進捗状況及び予算・

資金、経費の状況について、それぞれの教会から報告された。それを受けて相互に情報交換、意見交換、協議がなされていて、再建への意欲を強く感じさせられた。
委員会は、前回(第五回)委員会記録及び教団総会に提出する委員会報告を確認後、事務局から、まず募金の状況及び会計の報告を受けた。
募金の状況は、九月二日現在で九一、七四七、九〇七円であり、中部教区からの教区総会決議に基づく大口の献金もあり、かなり推進

されている。
一方、再建支援金は三、〇〇〇万円強支出され、今回の委員会で承認した三、一〇〇万円強を加えれば、再建への動きが会計的にも推進されている。
続いて委員会に陪席された、高橋潤中部教区議長及び小宮山剛中部教区能登半島地震被災教会再建委員長と共に中部教区の再建委員会を陪席した中で受けた感想、問題点等について話し合った。また、新たに会堂等の改築、補修等に伴う支援金の申請について、委員会はこれを承認した。
(津村正敏報)

以後、協議に入り、今回が今総会期最後の委員会となるので教団総会に向けて当委員会の継続を申し入れることとし、その内容について協議決定した。
翌九日は、現地問安として羽咋教会・富来伝道所の改築現場、及び、輪島教会会堂補修と牧師館改築の現場を訪れた。
輪島教会では教会員の方と親しく懇談の時を持ち、再建の困難さとともに、これからの希望について話し合った。
(津村正敏報)



輪島教会会堂補修と牧師館改築の工事現場

これら問題点を、「宣教基本方策」、「宣教基礎理論」に関する問題提起」としてまとめると共に、今期委員会が目指した新たな宣教基礎理論の考え方を、「宣教基礎理論」作成のための共通理解」としてまとめた。
次期委員会も、「宣教基礎理論」作成に向けて歩みを継続してもらいたいと願っている。
次期委員会へのその他の引き継ぎ事項としては、万博・東神大・教師検定期問題年表、改訂のためのプロジェクトの継続も挙げられた。
(長谷川洋介報)

教師検定試験公告

二〇〇九年春季教師検定試験を左記の要領で行います。
一、受験要綱と受験願書の提出期限
受験要綱と教団指定の願書用紙は一六〇円切手を同封し、正教師受験志願者が補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者が明記した上、封書でお申し込みください。願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。なお、正教師受験志願者は、教師検定期規則第十二条によるものに限りません。
①教区締切 十一月十七日(月)
(教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください)
②教団締切 十二月八日(月)
(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)
* 受験料は正教師一万三千元、補教師一万元
二、補教師について
①「説教」「釈義」の課題テキスト
旧約 イザヤ書 五五章八〜十二節
新約 フィリピの信徒への手紙 四章二〜七節
②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱で確認下さい。
③補教師(Cコース)の牧会学の課題
『牧会とは何か』について論述してください。
三、正教師について
受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。
四、提出物(説教、釈義、牧会学)締切について
当委員会への提出締切日、二〇〇八年十二月十五日(金) 必着です。
五、学科試験と面接について
学科試験は二〇〇九年三月三日(火)、面接は三月四日(水)、三月五日(木)に東京・日本キリスト教会館ビル内(教団会議室)にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。
二〇〇八年十月一日
日本基督教団教師検定委員会
〒一六九一〇〇五
東京都新宿区西早稲田二一三十八一三十一
電話(〇三)三三二一〇一〇五四六

継続課題を検討、次期へ申し送る

第5回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会

第五回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が九月一日教団会議室で開催された。前回議事録を修正して承認した後、委員が参加した常議員会、全国キリスト教学校



たくさんの継続課題を抱えている委員会

人権教育セミナー、外登法問題国際シンポジウムの報告を受けた。野村和幹事から、李仁夏牧師の逝去に際して弔電を送ること、教団議長と在日大韓基督教教会総会長との連名で出された、平和のセージについて報告があった。また教団総会への委員会報告の評価と展望の部分について確認した。在日大韓基督教教会宣教100周年記念事業への協力を教団議長宛再度アピールすることとした。

宣教師の辞任・後任を協議

第3回台湾協約委員会

任期を終えるにあたって当委員会の継続課題を検討し、次の事項を次期委員会へ申し送ることとした。

在日大韓基督教教会の歴史と現状を学ぶ。*外キ協ブックレット「歴史をひらくとき2008」共に生きる世界」の学習を薦める。宣教師協約の学びを深める。在日大韓基督教教会が取り組んでいる人権問題に学ぶ。日本基督教団と在日大韓基督教教会との宣教師協議会への参加を希望することとした。

第35回総会期第三回台湾協約委員会が八月二七日正午から、大阪の浪花教会で開催された。

主な議事は、次の通り。二〇〇七年度委員会会計決算及び二〇〇八年度委員会会計予算に関する件は、資料を確認して承認。

台湾高雄日本語教会付属めぐみ幼稚園に派遣されている宣教師から任期満了の希望が伝えられた件については、詳細な報告を受け、当委員会に世界宣教師

加及び同宣教師委員会との協力。外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ協)活動の参加・協力。*外国人住民基本法の制定を求める国会請願署名用紙の各教区総会参加者への配布。*外国人指紋制度の中止を求める署名用紙の各教区総会参加者への配布。キリスト教学校人権教育セミナー等関係するセミナー・集会の参加。

「平和のセージ」の両教会協力による作成。二月八日(協約締結日)を「宣教師の日」(仮称)とするように求め、共同讃美歌「編纂及び西教会の歴史編纂の可能性を探る。教団として十年間取り組んだ旧日本軍慰安婦支援献金募金の経緯をまとめる。次世代育成のために、多民族・多文化共生キリスト教青年現場研修プログラムへの参加を呼びかける。」

(土井桂子報)



猛暑続く8月の大阪、浪花教会を会場に

今総会期委員会活動を振り返る

第5回障害者差別問題小委員会

九月八、九日、教団会議室に於いて今総会期最後となる第五回障害者差別問題小委員会が開催された。

主な議事は、今総会期における委員会活動を振り返りつつ、次期への申し送り事項を挙げることである。今期の委員会活動は、主に三つあげられる。

第一に、委員会の名称を「障がい」を考える委員会」に変更する提案をしたことである。これは、この委員会が、差別問題だけに留まらず障がいを持つ苦しみの根底にある心や魂の配慮を豊かにできるように願っている者がイエス・

キリストを主とあがめる教会となることを望むという思いを含んでいる。

第二に、情報発信と情報収集の手段として当委員会のホームページを開設したことである。まだまだ十分分な所はあるにせよ、分かち合うためのまず一歩を踏み出したと思う。今後、アンケートなどを有効に行い、さらに内容が豊かになることを願っている。

第三に、今年度は四年ぶりに全国交流会を開催することができたことである。特別な講師を立てるのではなく、障がいを持って歩んでいる人たちが自身に発言し

ていただき、それを分かち合うことができ、良き交流の場が与えられたと思う。これらの活動を受けて、次期委員会へ以下のことを申し送ることとした。

障がいについての理解をさらに深める。「障がい」を考える全国交流会を行うための献金を継続する。情報発信と情報収集ホームページの継続と充実。*教区への「障がいに関する取り組み」アンケートの実施。知的障がいをはじめ様々な障がいにも目を向けてゆく。高齢者問題にも目を向けてゆく。

(加藤幹夫報)

「宣教師内規」文言変更案確定

第7回宣教師人事委員会

第35回総会期第七回宣教師人事委員会が去る九月五日(金)午後二時から五時まで教団会議室において行なわれた。出席者は委員五名中四名と陪席者一名及び事務局からの二名であった。まず前回記録案を読み上

げ字句を訂正した後、これを承認した。

次に第五回常議員会や当委員会と関わりのある諸委員会の報告を受け、議事に入った。

議事では当委員会の責任事項である宣教師の移動に関する件が取り扱われた。長く日本で働かれたドイツMBCKのシンのG・シニア宣教師の退任、北米関係では一〇年間の働きを終えたハインツ夫妻の退任及び新任、任地変更、任期延長、本国活動等の宣教師人事が承認された。

今回の委員会で長い時間を割いて協議された事項が二つある。

一つは現在作成作業が進められている「宣教師内規」についてである。この中に受入れ宣教師の置かれていく状況がわからないと理解しにくい条項があり、協議の結果新しい文言に変更案を確定した。

二つ目は、昨年一宣教師

がリーダーとなって行った海外へのスタディツアーで重大な事故が発生した件に関するものである。

この場合当委員会や同宣教師の関係機関はどう責任をとるのか、また責任を負うために必要な諸宣教師との連絡・報告体制をどう構築するのか等について話し合った。これは今後さらに取り組むべき課題である。

(木下宣世報)

消息



三宅君恵氏(隠退教師)
七月五日逝去。九二歳。静岡県に生まれる。一九四二年日本聖教会聖書学校卒業後、浦田東口教会に赴任。その後、五六年から二〇〇一年まで元住吉教会牧師と

八月十一日、逝去。八二歳。神奈川県に生まれる。一九五五年東京神学大学院修了後、六角橋教会に赴任、同教会牧師として務めた。遺族は妻の光子さん。

事務局報

- 補教師登録
木戸健一 (二〇〇八・七・七受允)
- 正教師登録
花城静子 (二〇〇八・五・二五受按)
- 補教師転入
温井節子 (二〇〇八・七・二五常議員会承認)
- 教師異動
愛知 辞主(井上孝仁)
高槻向山 辞担(桑原重夫)
鶴見橋 辞主(渡邊聖一)
田瀬 就代(木下忠司)
生駒 辞担(加藤弘治)
- 九州キリスト教社会福祉事業団 就教堤 健生
伊万里 就代(末瀬昌和)
赤池 就代(長田圭子)
愛知 就代(大島純男)
内灘 就代(横井伸夫)
鎌倉雪ノ下 就担(落合建仁)
藤沢 就担(上竹裕子)
浜松 就代(岩本二郎)
羊之舎 就主(外山志都子)
なか 就担(田中牧子)
船越 就代(北村慈郎)
" 就主(田中牧子)
松江古志原 就主(鎌野 真)
角田 就担(温井節子)
倉敷水島 就主(宇野 稔)
岡山 就主(井上孝仁)
倉敷 就担(大澤 香)
- 教会所在地変更
川之江 愛媛県四国中央市川之江町八六九一―A
東中野 東京都中野区東中野三―八一六
教会通信先設定
新島 横浜市金沢区大川七―一〇一四一三 小橋方
教会通信先廃止
港南希望
DCE改姓
塩谷咲野加 佐々木咲野加

宣教師からの声

アジア学院での宣教

潘 炯旭 (Pan Hyonuk)

(基督教大韓監理会からの派遣宣教師)

アジア学院は一九七三年に栃木県那須山麓に「主イエス・キリストの愛にもとづいて、アジアの農村地域社会の人々の向上と繁栄に献身する中堅指導者を養成し、公正で平和な社会の実現に寄与すること」を使命として設立された学校です。今年創立三十六年を迎えます。毎年四月～十二月までの八ヶ月間、アジア・アフリカ(時に太平洋諸島、南米)のいわゆる途上国から牧師、神父、NGO職員、農業組合リーダー、女性グループのリーダー、教師など農村の人々の暮らしを改善するために働く草

会つことができず、働きながら、またコイノニア(食堂)で食事しながら自分の思いをそのような学生さんたちと話し合うことができません。私は共同体生活の担当職員として、アジア学院の学生達がアジア学院の研修を終了し、将来それぞれの土地で農村指導者となっていくのを手助けすることが出来た。アジア学院の学生達が良き指導者として変化を遂げていくと、私の心は喜びにあふれ、神様への感謝でいっぱいになります。これが私が宣教師と働く原動力となります。

また時々アジア学院に以前訪問したことがある若い人達から電話やメールを受けることがあります。それは洗礼を受けたという報告であったり、聖書を読み始めたといったことであったり、日曜日に礼拝に出席するようになったといったことでもあります。これは私が受け取ったメールの一つです。

「潘先生、私はアジア学院での生活とアジア学院コミュニティをとっても恋しく思っています。」

アジア学院での夏は私と私の友人にとつて神様の力を感ずる上でとても意義深いものでした。私はアジア学院で起こったたくさんのいい出来事のお陰で友情を深めることができました。彼女が自分から進んで教会に行くと言っていることを信じられますか？潘さん、チンさんは彼女だけでなく私のクリスチャンの良きモデルです。

私の妻チンへも神の使

の根の農村指導者を招いて指導者養成を行っています。

私は韓国のメソジスト教会の牧師であり、アジア学院の一九八三年の卒業生であります。そして二〇〇四年九月からアジア学院で宣教師スタッフとして奉仕をしています。私はアジア学院を心から愛しています。私はここで神の道具として神の使命のために働くことを心から喜びと思っています。私はここアジア学院に宣教師として送られてきてからずっと、高い使命感に燃えています。ここでは日本国中から集まる若い学生さんと



2008.4.12 入学式の後

(翻訳/荒川朋子)

日本宣教一五〇年を迎える

合言葉「感謝と奮起」

二〇〇八年七月二十六日、銀座教会で行われた東京信徒会は熱気に包まれた。昨年来勉強会を通して準備してきた日本伝道一五〇年をこの日に迎えるか、東京信徒会の方針を決定する時であった。映像、グラフで見る教団の姿の最後に映し出された「感謝と奮起」エッセイと同時に共感の拍手が湧き起った。

東京信徒会として、日本伝道一五〇年を記念する目的を次の言葉で表した。

「日本伝道一五〇年を迎えるに当たり、この地に注がれた主の恩寵とお導きに感謝し、更なる福音宣教の機会として、幅広い信徒が『贖罪と和解』の信仰に立つて伝道に奮起する。」

一方、教団の姿の姿をどう捉えたらいいのか、地に足の着いたところからスタートすべきであるとの思いから、手掛かりをこの映像に求めた。教団評決委員会に求めた。教団予決委員会の配慮によるものである。映像は教団の実像を淡々と示すが、その中身は深刻に迫ってくるものであった。

グラフは語る。教団全般

会の経常収入はこの八年前で五億七千万円の減、マイナス4.3%。これは、実はお金の問題よりも人の問題であると言っている。人の問題は現任陪餐会員の減少。その原因はどこにあるのか。それは受洗の低迷にあり、更に教団特有の超高齢構造が、同時に信徒の減少を促進していくと述べる。

超高齢構造とは、戦後二〇年間の受洗が現在までの受洗総数の63%を占めており、この世代交代が一巡するまで信徒減少は続くこと分析する。つまり「受洗が召天に追いつかない」状況が到来しているのである。

全国一教会当りの年間平均受洗数は0.8人。向う一〇年間で中堅教区の一つが消える規模に達すると、危機を訴えている。

この時にあって、日本伝道一五〇年記念の年を迎えるのである。東京信徒会は、この教団の状況を厳粛に受け止め、またとない伝道のチャンスとして、「感謝と奮起」を合言葉に決意を共有したのである。

(鈴木功男報)

出版局ニュース

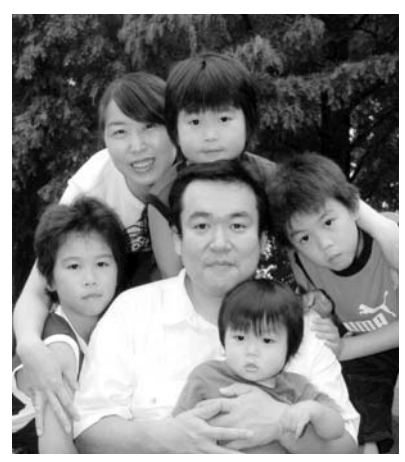
★九月の月刊から『新しい教会暦』による説教への手引き』日本キリスト教出版局聖書日課編集委員会編・A5判・五四六〇円 救済史的基本構造を持つ四年サイクルの「教

会暦」による黙想集。『文学としての説教』加藤常昭・A5判・二九四〇円 バルト、植村正久、竹森満佐一らの「対話」を通じた新たな視点を投じる。『日々祈り』J・H・ジヨット・A6判・一五七五円 愛蔵版 二五二〇円

ひととき

石井 敏昭さん

楽しい教会



1972年7月1日生。36歳。坂戸いずみ教会役員

教会との出逢いは、キリスト教幼稚園に通う事から始まる。その後、埼玉県川口市に転居、小学二年生の時に友人に誘われて初雁教会の教会学校に通うようになる。高校一年生のイースターに、山岡豊牧師より洗礼に与った。一九九六年に千津子さんと結婚。十一歳を先頭に四人の子どもの父親。

子どもが六歳になると、その子と二人で広島へ旅行する事になっている。感受性が豊かな子どもに、平和記念資料館で戦争の記録やビデオ、ジオラマ等と一緒に見て平和について考える事を目的としている。教会行事や地域の催し物にも家族で積極的に参加する。それは、家族と一緒に面白くてワクワクするしさを覚えた。それは、神様の

事を色々考えたから。その時の家族の笑顔を楽しんでいる。勿論、日曜日には家族全員で礼拝に出席する。家族に一番大切な神様を知って貰いたいから。だから、結婚してからは、妻が受洗する事を祈った。その祈りは、御心として実現された事を喜んでる。

現在、所属する坂戸いずみ教会(山岡創牧師)の前身は、初雁教会の出張集会所だった。集会所から伝道所へ、そして会堂建築を経て第二種教会へ、近年には宗教学者取得した。この激動の時にあって、少しも不安を抱いた事は無く、むしろ愉しさを覚えた。それは、神様の

御心として実現したこと、と素直に喜ぶ。

教会に集うことは、良き事であり楽しい事と考えるから、子ども達がしっかりと教会に連なり、生涯イエス・キリストに従う事を願っている。教会役員として今考えている事は、教会学校の子ども達や青年達といた、教会を支える次の世代のフオロだ。その為にも他教会との交流を深めて学びたいという願いを持っている。だから、教会役員との交流がもたらすことも良いと考える。これからも、世代的に近い山岡創牧師や他の教会役員と共に、キリストの体なる教会を形作る喜びに生かされたい。

日本基督教団教会・伝道所各位

第39回「日本基督教団開拓伝道協議会のご案内」文中、以下の部分は事実と異なりますので各教会・伝道所におきましては訂正をお願いいたします。

報告(問題共有のために)

「三里塚教会問題を通過して」 八木かおりさん(三里塚教会)

右文中、八木かおりさんの肩書き(三里塚教会)に関しては、日本基督教団三里塚教会の教師は川島正行牧師であり、八木かおり氏は同教会の所属教師ではありません。

日本基督教団三里塚教会牧師は川島正行氏であることにつきましては一九七九年六月一日付で日本基督教団総会議長後宮俊夫氏(当時)の証明があり、又、一九九三年二月三日東京教区常置委員会の決定によっても日本基督教団三里塚教会の牧師は川島正行氏であるとされており、一九九四年五月二四日、二五日の第五一回東京教区総会においても常置委員会裁定承認の教区総会決議がなされております。加えて千葉支区も日本基督教団三里塚教会の教師は川島正行氏であることを繰り返し確認しております。このような肩書きを用いることは全国の諸教会に誤解と混乱を生ぜしめる恐れがありますので、その肩書きを訂正あるいは抹消を開拓伝道協議会に求めておりましたが聞き入れられませんでしたので、教団新報に掲載を願ったものであります。

日本基督教団東京教区千葉支区 支区長・中村征一郎、副支区長・岸憲秀、書記・真島威